

〈日本の谚语〉—说起来年事连鬼都要笑(意指:明年的算盘,打得过早)—

这个谚语是说“明明不知道明天会怎么样,居然还要说‘明年’这么久远以后的事,确是愚蠢。如同连经常摆着一幅可怕的脸孔的鬼都不禁要笑出来似的荒唐。”的意思。

“鬼”经常出现在日本的故事传说中,是人们想像出来的怪物,大致长着人的样子,皮肤大多是通红或者苍白,头上长着角,或者穿着一条虎皮裤的样子。性格粗暴,冷酷无情,手持金棒(日语译音:「卡那博」=铁制的棒)。谚语中就有“如虎添翼”这一词语,是说“让本来就强大的鬼再拿着武器”,也就是说所向披靡的意思。

另外,“鬼”还常被用于说“工作鬼”(工作狂),“拳击场上的鬼(对自己非常苛刻)”,以“对一样事物专心到可怕的程度”的意思被使用。

也不知道是不是由于过去人们的寿命比现在要短,还是那时候人们度过时间的方式比较悠闲,所以还没有过年就说起新的一年的事情,这是被认为连想象出来的怪物、即鬼都要笑的荒唐无稽的事情。但是,身处于现代的我们不要说来年,往往把3年5年以后的事情都计划好的也大有人在,而且不管是私人旅行也好,还是出于工作也好,打从好几个月之前就需要制定计划、做好准备。虽说如此,在如今的现代生活中,也不知道为什么还是有好多人在说来年话题的时候总喜欢在前面先说一句“要说起来年的事情啊,连鬼都要笑……”,也许是想用这个谚语来中和一下那种把事物安排的太过于超前的紧凑感吧。

转眼这个月就是十二月。”明年”马上就要来临。也许在变得很是忙碌以前,好好的回顾一下这一年,作一下明年的规划也许还是应该的。一年已经走到了这里,估计很厉害的鬼也不至于会笑吧。

〈日本のことわざ〉—来年のことを言うと鬼が笑う—

「明日のことさえわからないのに、まして『来年』というずいぶん先の話をするなんて馬鹿げている。いつも恐ろしい形相の鬼でも思わず笑ってしまうぐらい馬鹿げている」という意味のことわざです。

「鬼」は、日本の昔話などによく出てくる想像上の怪物で、人の形をしているもののたいがい肌の色は真っ赤や真っ青で頭に角が生えており、虎の皮のパンツ1枚という姿。乱暴で無慈悲な性格で手には金棒(かなぼう=鉄製の棒のこと)を持っています。「鬼に金棒」ということわざもあり、これは「強い鬼にさらに武器をもたせる」つまりかなう者のいないほど強いことを表します。

またしばしば「鬼」は「仕事の鬼」「リングの鬼」というふうに、「恐ろしいまでに一つの物事に打ち込む人」という意味でも使われます。

さて昔は今よりも人間の寿命が短かったからか、時間の流れ方がゆったりしていたからか、年も越さない前に新しい年の話をするのは、想像上の怪物である鬼が笑うほど荒唐無稽なことだったのかもしれませんが、現代を生きる私達は来年どころか3年先、5年先といった計画を立てることも多く、プライベートで行く旅行でも仕事においても、何ヶ月も前から段取りをして準備をする必要があります。それでもそんな現代においてさえも何故か来年の話をする時に「来年のことを言うと鬼が笑うと言いますが…」と前置きをする人は多く、物事がずっと先まで決まっているという窮屈な感じをこのことわざは和ませる働きをしているのかもしれませんが。

さて今月は12月。「来年」ももうすぐそこまで来ています。何かと忙しくなる前に今年を振り返り来年の計画を立ててみるのも良いかもしれません。1年もここまできれば、さすがの鬼も笑わないでしょう。